



もりメイト倶楽部 Hiroshima 発【森づくり啓発シリーズ】
～こんな事にも関わっています～



広島テレビ開局 60 年企画「いま動こう！みんなで防災 PROJECT」の一環として今年も尾長山（尾長天満宮鎮守の森）で親子での森林保全体験が実施されました。本プロジェクトは「森林の保全」が「事前防災」につながる重要な要素であると捉え、広島テレビより依頼を受け「広テレ気象キャスター・塚原美緒気象予報士、塚ちゃんと一緒に森から防災を学ぼう」に、もりメイト倶楽部 8 名の指導員が協働しました。

森から防災教室 in 尾長「広島テレビ主催」

「もりメイト倶楽部 Hiroshima」体験指導を行いました

4 班 佐藤 謙治



元気な意気込み「おーっ!」。参加の子ども達親子



がんばりました。みんなで伐った木を前にパチリ。



恐竜を作ったよ。

10月9日（祝・月）。当日は曇りで少し肌寒く秋を感じさせる天候の中、広島テレビスタッフ、保護者と子供 23 組（46 名）の皆さんが、森についての学習、間伐体験、木工クラフトを通して『森の防災』について学びました。

まず、主催者挨拶後、塚原気象予報士より『地球温暖化による災害、防災観点での森の役割』についてクイズを交えての学習会。次に、山本理事長から『森は宝物である。生活に欠かせない森を整備する重要性』についての講義を受け、森に入るときの手順、注意点の説明を受けた後、参加者全員で「元気な意気込み」を写真に収め意気揚々と、7 班に分かれ尾長神社鎮守の森整備体験に入りました。間伐の手順（受け口・追い口の入れ方）、伐

倒の注意点などの指導を行い、参加者全員ケガもなく間伐体験をして頂き、指導員として微力ながら「広島テレビ主催」の森から防災への取り組みに関われた事、嬉しく思っております。

昼からは当倶楽部のクラフト部会が間伐材で加工・製作した材料にて、太古の森の生き物「恐竜」の製作を体験し、森との関わりをさらに深めて頂いた一日となった事と思います。

解散後、班ごとの指導の振り返りを行い、伐倒の指導方法、森林整備の意義の伝達手法、安全作業の改善点など、指導員のスキル UP と今後の活動に役立てるよう倶楽部として共有していくことを話し合い解散しました。

これからも未来を担う子供たちや一般の人たちに森づくりの大切さを伝え「もりメイト倶楽部 Hiroshima」の仲間と啓発に携わりたいと思える楽しい一日でした。

スタッフ：山本理事長、見勢井顧問、砂原、北田、佐藤、岩田、富田、山本(薫)

～参加者の感想から～

「ノコの使い方が難しい」「木を切ることがこんなに大変だと思わなかった」「参加者全員でのロープ補助など力を合わせ連体感が湧いた」「森が明るくなり気持ちが良い」「森が災害を防ぐことに役立っている。大切にしたい」



愛媛県の石鎚山系の山を歩いてきました。ふと見つけた・・漢字の「木」に似ている「木」。芽生えてからやがて朽ちても・・なお・・木。



無骨な勇姿に惚れ惚れしました。強い意志があり立っている木。立ち枯れ木だからとむやみに手を出さずに・・。自然に抗うと「木のき」は「危のき」になるなあ・・と思ったのです。

=自然界の中で木々が我々に伝えてくれているメッセージかな?って。=

(かおりん)